

平成 30 年 9 月 20 日

広島大学脳・こころ・感性科学研究センターを設置します

広島大学は 10 月 1 日、脳・こころ・感性科学研究センターを設置します。

本センターでは、人間の本質である“脳・こころ・感性”について、脳科学を中心に、医学、工学、情報科学、人文社会科学など、幅広い分野の視点から融合的に探求し、「感性科学」の学問体系の確立をめざします。

近年の工学、情報科学などの科学技術の進歩により、物質的には豊かになり便利になってきました。

一方で情報化とグローバル化による競争社会はストレスを増大させ、いじめ、ひきこもり、うつ病などこころの問題が顕在化し深刻な事態となっています。

これまで脳の働きはブラックボックスであり、科学的にアプローチすることが困難でしたが、最近の脳科学研究の進歩により、脳機能を可視化することが可能となりました。

広島大学では、2011 年から文部科学省の事業としてスタートし、現在は医療研究開発機構（AMED）が進めている、脳科学研究戦略推進プログラムにおいてうつ病研究拠点の代表機関に指定され、感性のネガティブな側面である憂うつ感を主症状とするうつ病の病態解明、客観的診断法および革新的治療法の開発研究に取り組んでいます。また、2014 年からは、文部科学省・革新的イノベーション創出プログラム（COI）において採択された「精神的価値が成長する感性イノベーション拠点」で、ポジティブな感情の可視化技術を開発しています。

本センターでは、それらの研究をさらに発展させ、衣・食・住・医療・教育に関連するものづくりに活用して産業イノベーションを生み出すため、「こころ・感性」という曖昧だった概念を脳科学的に定義し解明し、“憂うつ感”や“ワクワク感”を見える化する技術の開発をめざします。また、大学院改革の一環として、これらの基礎研究を社会実装につなげることでできる若手人材を育成します。

これまで、感性のネガティブからポジティブまでの脳科学研究を展開している研究拠点は国際的にも存在せず、広島大学がこの領域のグローバル拠点となり得ることが期待できます。

【お問い合わせ先】

広島大学社会産学連携室 特任教授
山脇 成人
〒734-8553 広島市南区霞一丁目2番3号
E-Mail:yamawaki@hiroshima-u.ac.jp

図1. 脳・こころ・感性科学研究センター(案) Brain , Mind and KANSEI Sciences Research Center

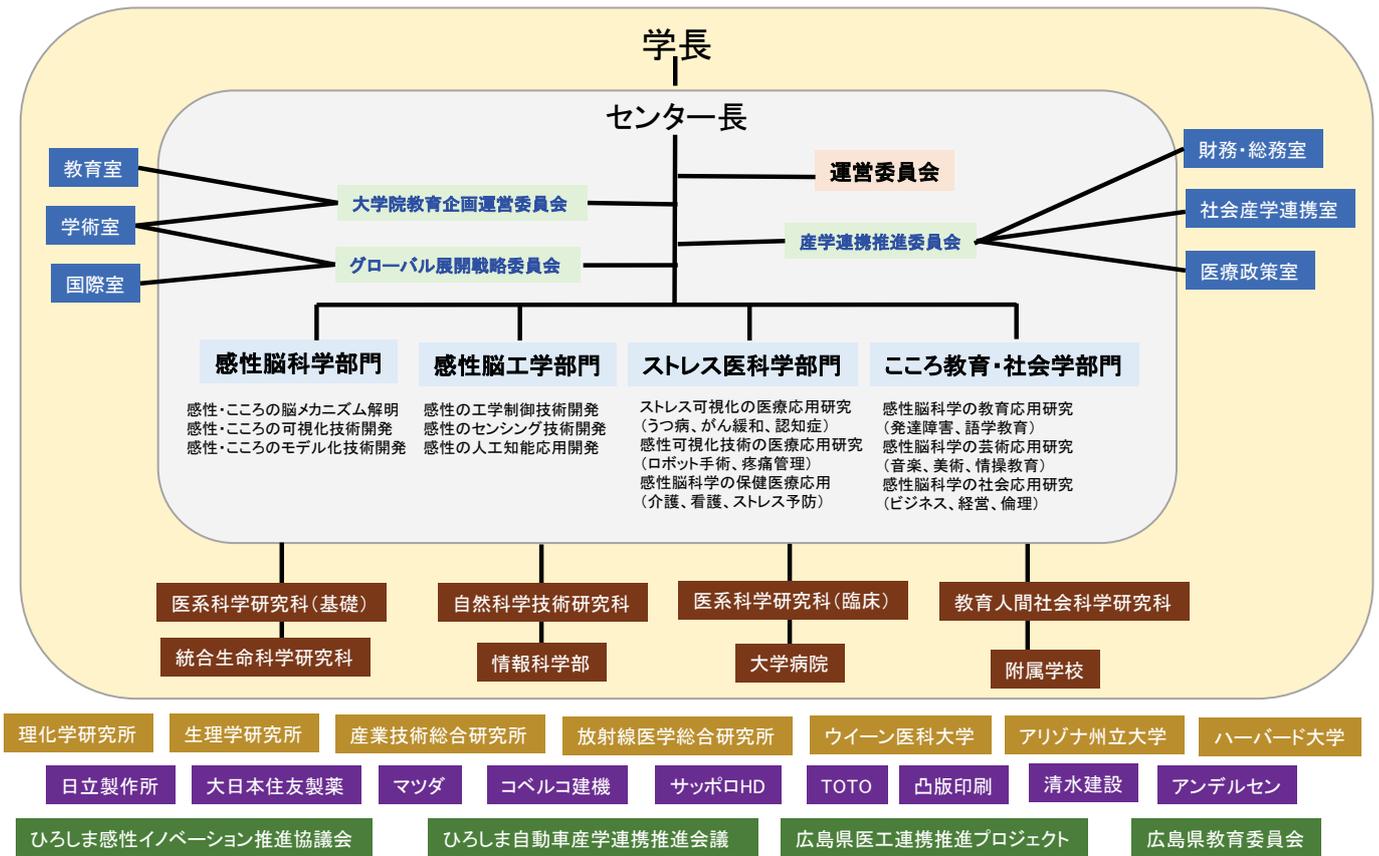


図2. 脳・こころ・感性科学研究センター設置による持続可能な広島大学改革へのシナリオ

